



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和6年9月4日

第5号

石神井中生の夏休み

校長 山田 美鈴

1学期終業式で私は全生徒に向け「皆さんに会えない44日間という長い夏休みは、石神井中生ロスで気落ちしないかと不安ですが、何とかそれを乗り越えます！」と伝えました。本心です。

忘れもしない令和2年度、コロナ禍による学校閉鎖期間によって、生徒の姿を見ることのない学校を体験した私は、教員生活で初めてやりがいを見失いました。“生徒のいない空間など学校ではない！”得体のしれないウイルスが相手となると、成すすべもなくただ時間の経過を切なく過ごすだけでした。今思えばあの時期は何だったのでしょう?!時を戻すことはできませんが、子供たちの成長の妨げになってしまったことは事実だと感じています。

しかしその時期とは違って、夏休みは日常の学校生活とは異なる生徒の姿を目の当たりにすることができます。少しでも生徒のいる場所へ!という気持ちを抑えることができず、部活動の試合や練習、ボランティア活動の様子など、普段とは違う生徒たちの様子を様々見ることができ、充実した夏休みとなりました。すべてはひたむきに何事にも挑戦しようという石神井中生たちのおかげです。突然の出没を温かく迎え入れてくれ、感謝しています。

夏休みに入ってすぐオーストラリア海外派遣が行われ、本校からも代表生徒が参加しました。言葉や文化の壁を越え積極的にコミュニケーションを図ることで、友好の輪を広げ将来の展望につなげてきてくれたことと思います。(9月30日に報告会を予定しています。)

I組3年生は、地域の様々な事業所で職場体験を3日間にわたり行いました。働いている様子を見に行くと「このまま働いてもらいたい」と言ってくれる事業所もありました。

1年生のイングリッシュキャンプでは、集団としてのマナーやルールを意識し、互いを尊重し合おうとする1年生の姿を幾度も目にしました。入学してから4か月間という短期間に大きく成長した1年生。先輩たちの背中を追う立派な石神井中生となりました。今後の活躍が楽しみです。

部活動では多くの部が練馬区の代表として都大会へ出場しました。3年生が現役として有終の美を飾る姿は、1, 2年生にとって誇りとする憧れの存在となりました。

8月1日には練馬区行政に子供目線で意見を届けるという「子ども議会提言発表会」が行われました。石神井中の代表生徒は、副議長という大役をみごとにこなし、担当課長からお褒めの言葉をいただきました。

また夏休み中に有志による地域のボランティア活動が様々ありました。石神井小夏祭り、上石神井北小くりりんボランティア(敷地内草むしり活動3回)、避難拠点防災訓練夏祭りなど、猛暑の中、汗を拭いつつ一生懸命活動する生徒たちのひたむきさに心打たれました。

「情けは人のためならず」ということわざがあります。最近どうやら「情けは人のためにならないからかけない(親切にしない)方がよい」という間違った理解をする若者が多くいるようですが、本来は「人のために心を遣い、体を動かすことによって、それが人のためになるだけでなく、いずれよい報いとなって自分にかえってくる」という意味です。

2学期がスタートしました。今学期も石神井中生一人一人と触れ合う場を求めて、有意義な時間を過ごしてまいりたいと思います。

